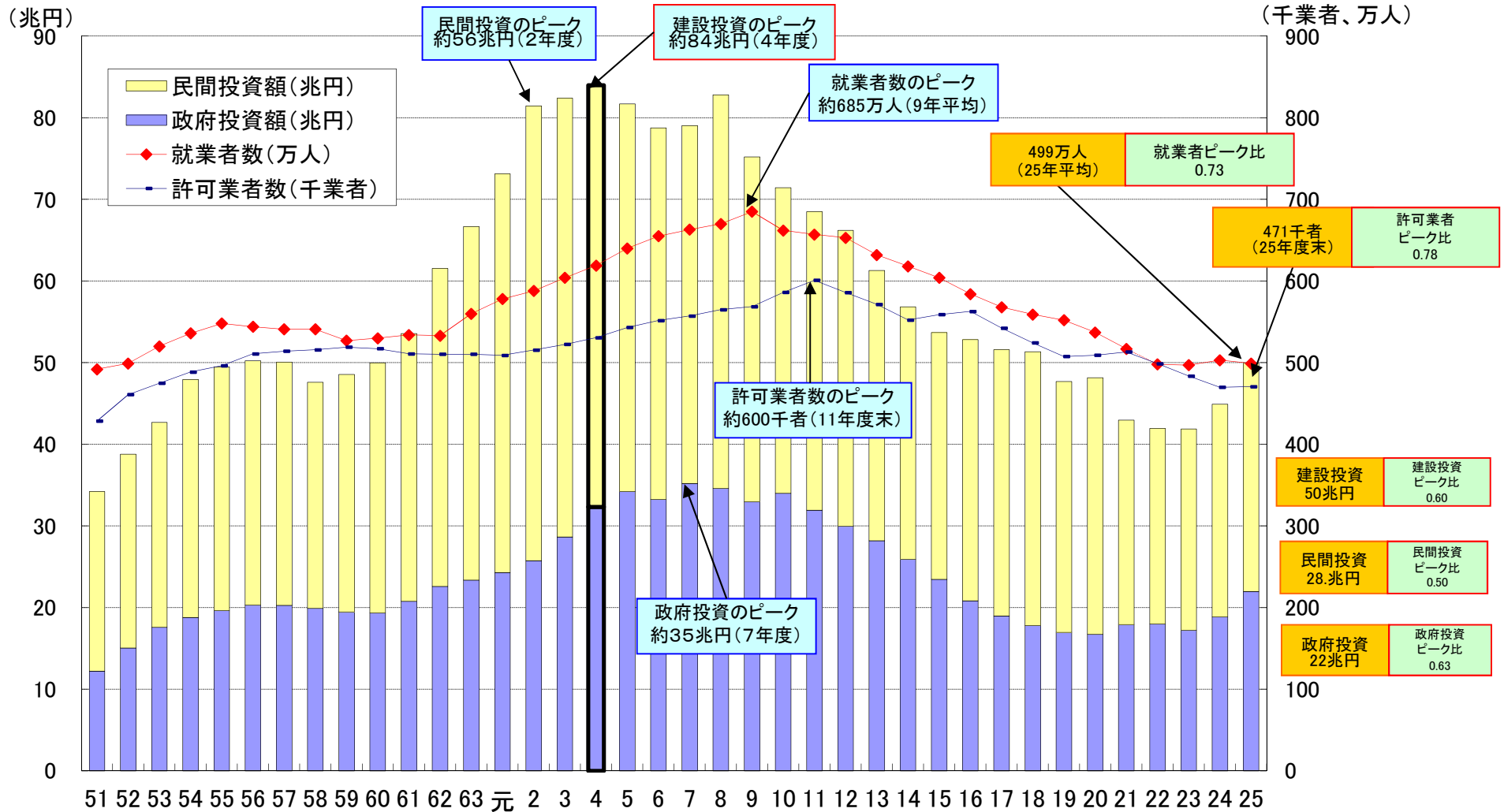


議事(1) 北陸地方の建設事業を取り巻く概況と品確法等の改正

(1) 全国の建設事業を取り巻く現況	P 1
(2) 北陸の建設事業を取り巻く現況	P 2
(3) 北陸3県の発注機関別工事費(政府投資)の推移	P 3
(4) 北陸における建設産業の位置づけ	P 4
(5) 建設労働者の高齢化の進行	P 5
(6) 北陸における公共工事労務単価の推移	P 6
(7) 北陸における建設業労働者の年収額の推移	P 7
(8) 北陸における実労働時間の推移	P 8
(9) 新卒者の離職状況(卒業3年後の離職率)	P 9
(10) 北陸における主な災害	P10
(11) 老朽化が進む社会資本	P11
(12) 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会	P12

全国の建設事業を取り巻く現状(建設投資、許可業者数及び就業者数の推移)

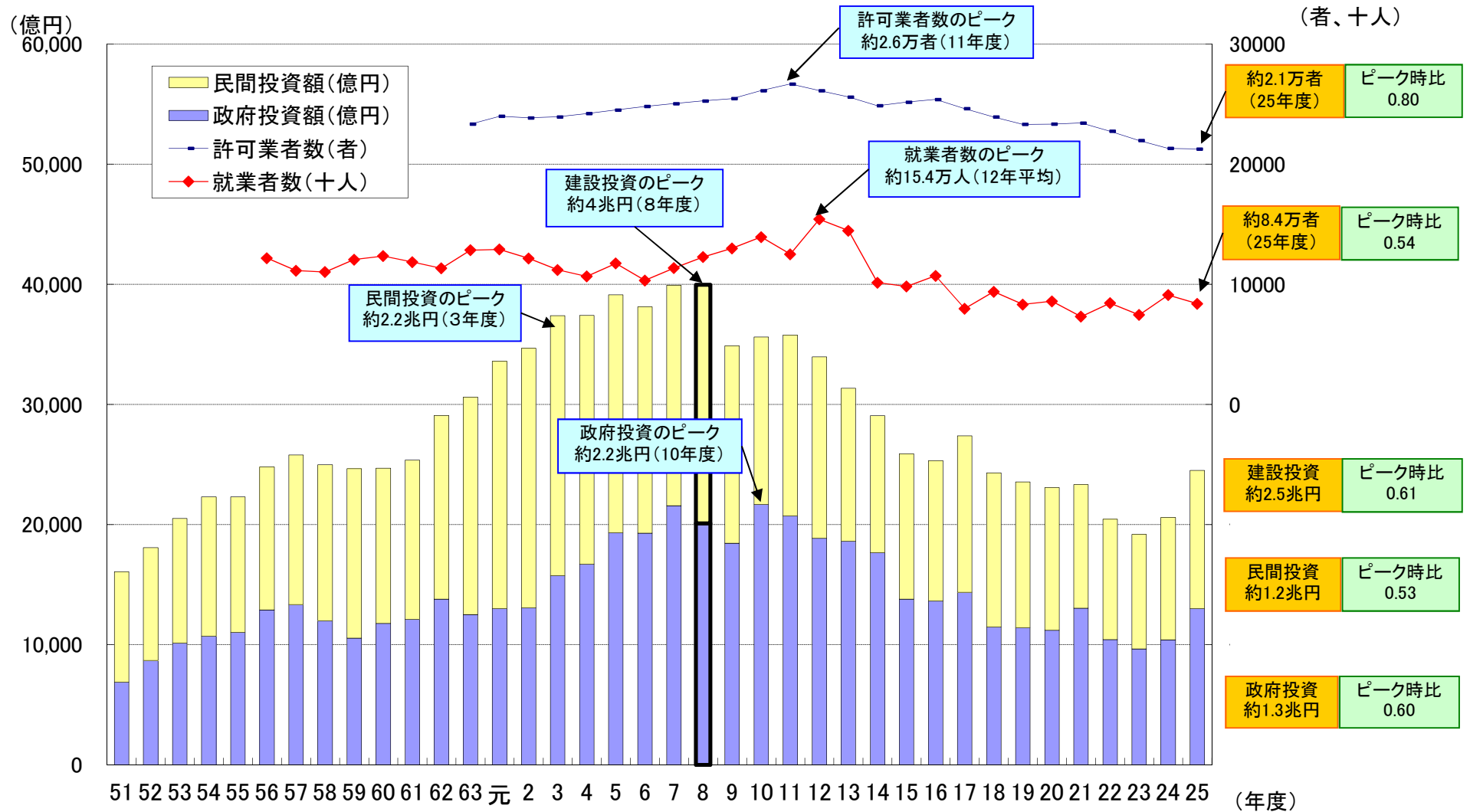
- 建設投資額(平成25年度見通し)は約50兆円で、ピーク時(4年度)から約40%減。
- 建設業者数(平成25年度末)は約47万業者で、ピーク時(11年度末)から約22%減。
- 建設業就業者数(平成25年平均)は499万人で、ピーク時(9年平均)から約27%減。



資料: 国土交通省「建設投資見通し」・「許可業者数調べ」、総務省統計局「労働力調査」より集計
 注1 投資額については名目値、平成22年度まで実績、23年度・24年度は見込み、25年度は見通し
 注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値

北陸の建設事業を取り巻く現状(建設投資、許可業者数及び就業者数の推移)

- 建設投資額(平成25年度見通し)は約2.5兆円で、ピーク時(8年度)から約39%減。
- 建設業者数(平成25年度末)は約2.1万業者で、ピーク時(11年度末)から約20%減。
- 建設業就業者数(平成25年平均)は約8.4万人で、ピーク時(12年平均)から約46%減。



資料: 国土交通省「建設総合統計年度報」・「許可業者数調べ」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より集計

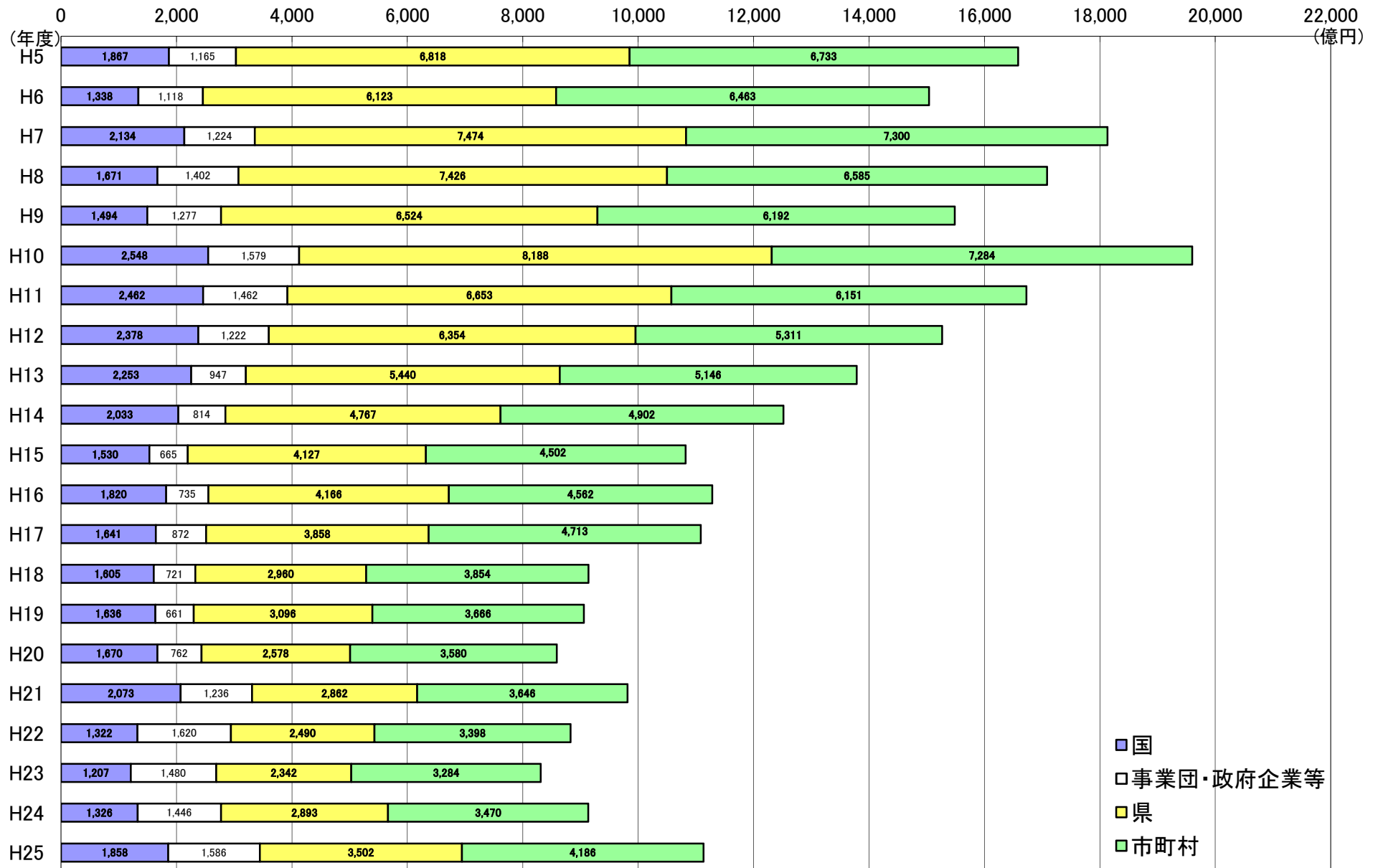
注1 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値

注3 投資額は出来高ベース

注2 北陸: 新潟県、富山県、石川県

北陸3県の発注機関別工事費(政府投資)の推移

○平成25年度の北陸3県の機関別工事費を見ると、県・市町村のシェアが約70%と大半を占めている。

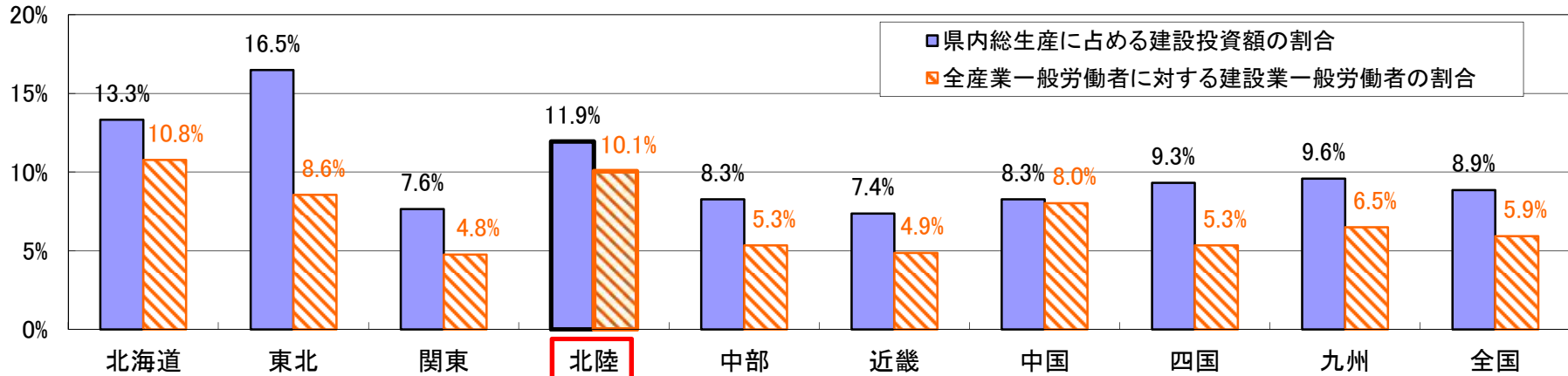


出典:建設経済動向(北陸地方建設事業推進協議会) (注)・平成24年度以前は最終額、平成25年度は見込額。

北陸における建設産業の位置づけ

- 建設業は国内総生産、全産業一般労働者の約1割を占める基幹産業
- 北陸は特にそのウエイトが他地域に比べて高く、経済・雇用・地域の活力を左右する重要な産業

■ 県内総生産に対する建設投資の規模(平成22年度)、全産業一般労働者に占める建設業一般労働者数の割合(平成24年)

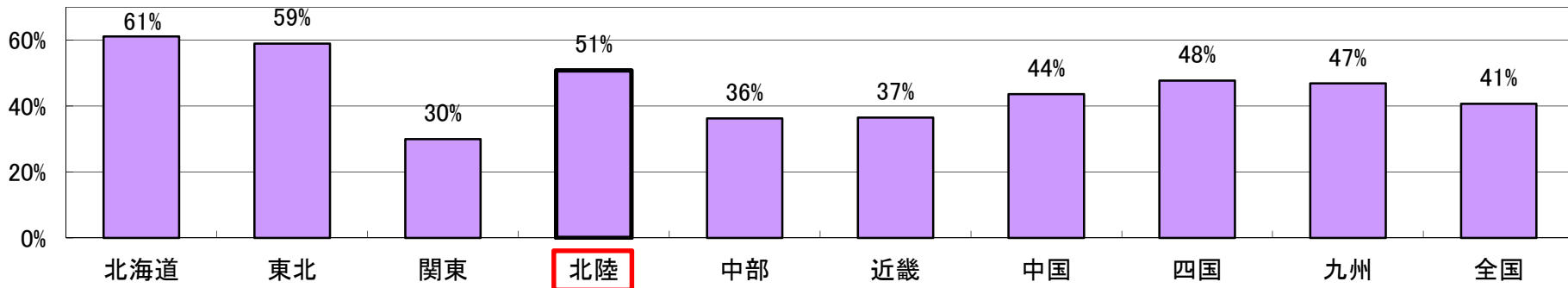


出典: 資料: 内閣府「県民経済計算」、国土交通省「建設総合統計(年度報)」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

注 北陸: 新潟県、富山県、石川県

- 北陸では、建設投資額全体に対する公共投資のウエイトが高く、公共投資が地域経済に大きな役割を担っている

■ 建設投資額全体に占める公共投資の割合(平成24年度)



出典: 国土交通省「建設総合統計(年度報)」

注 北陸: 新潟県、富山県、石川県

建設労働者の高齢化の進行

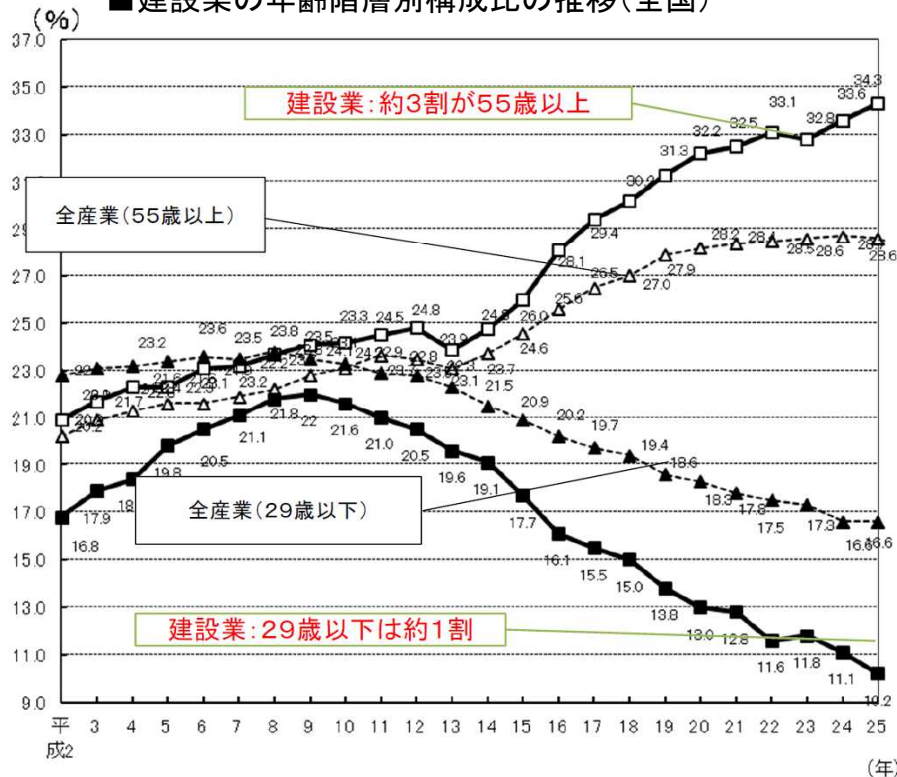
- 全国の建設業就業者は55歳以上が約34%、29歳以下が約10%と高齢化。
- 北陸の建設業就業者は50歳以上が約35%、29歳以下が約15%と高齢化。

建設業就業者の高齢化の進行

- 建設業就業者は、55歳以上が約34%、29歳以下が約10%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。
※実数ベースでは、建設業就業者数のうち平成24年と比較して55歳以上が約11万人増加、29歳以下が約5万人減少(平成25年)

建設業就業者数を年齢階層別にみると、中堅、若年層の減少が著しく、50歳以上の高齢層が3割を超えている。
これら高齢層の多数の技術者、熟練技能者が退職を迎えるなか、若年層の著しい減少により、今後の建設技術・技能の継承、維持に不安を抱えざるをえない。

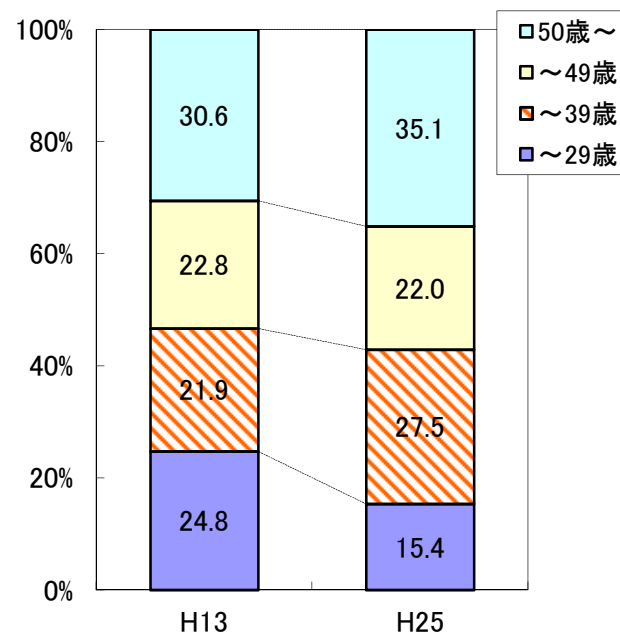
■建設業の年齢階層別構成比の推移(全国)



出典:総務省「労働力調査」

■建設業の年齢階層別構成比の推移(北陸)

(北陸:新潟県 富山県 石川県)



出典:厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

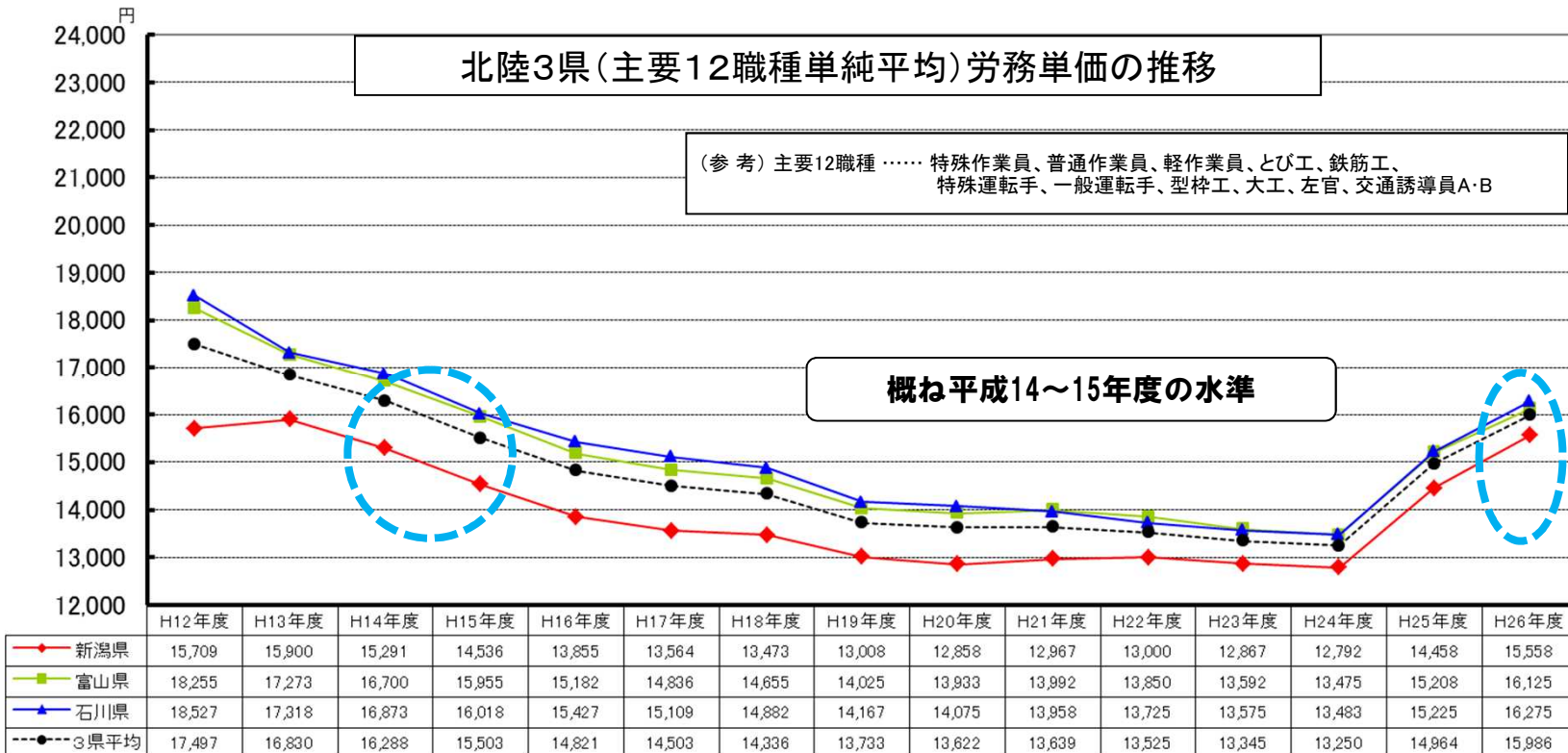
北陸における公共工事労務単価の推移

- 平成26年の公共工事設計労務単価は前年度比較で、全国平均で7.1%増。
- 北陸3県(新潟県、富山県、石川県)では平均で6.8%増。

北陸3県(主要12職種単純平均)

新潟県 15,558円 (対前年度比 +7.6%増 1,100円増)
 富山県 16,125円 (対前年度比 +6.0%増 917円増)
 石川県 16,275円 (対前年度比 +6.9%増 1,050円増)

[3県平均 15,986円 (対前年度比 +6.8%増 1,022円増)]

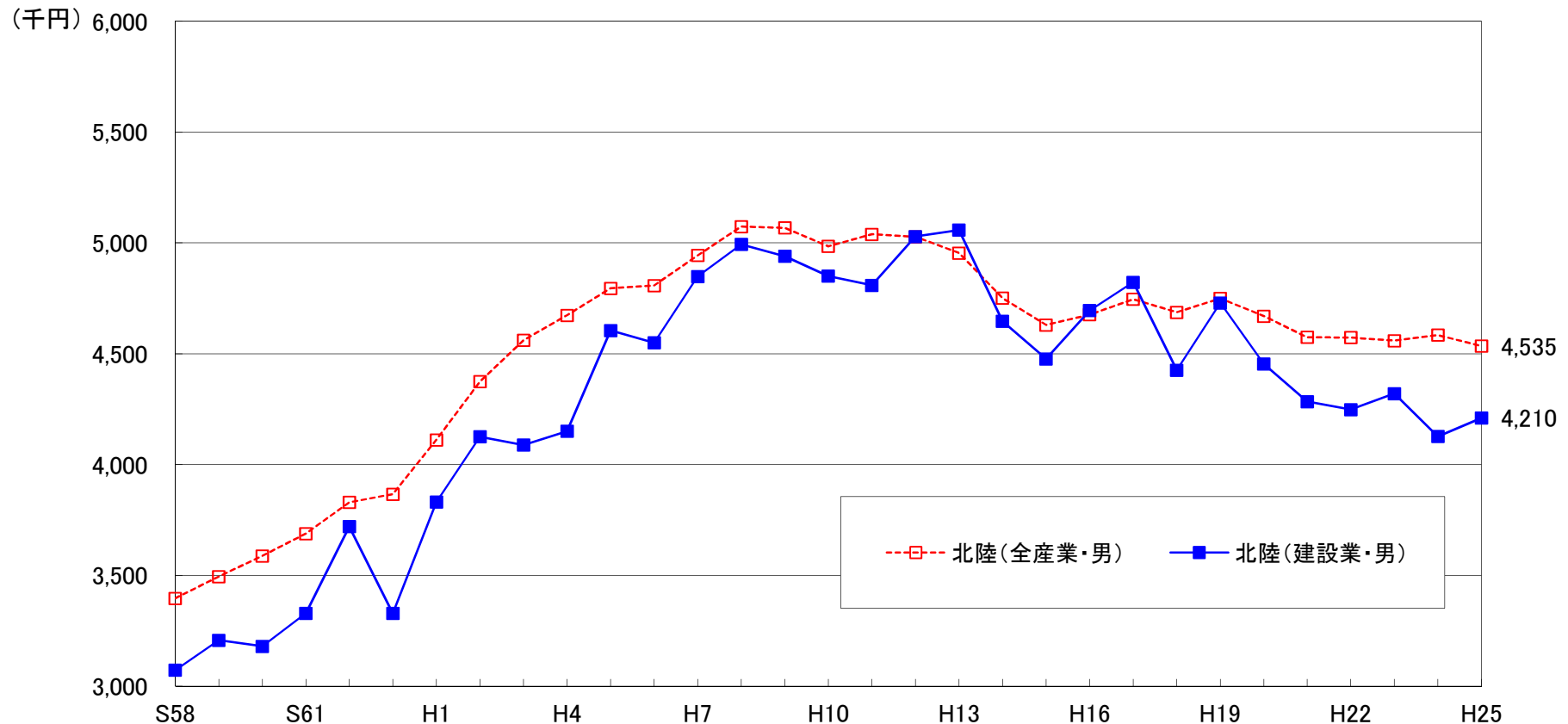


出典:北陸地方整備局 積算基準書(労務賃金・材料単価)

北陸における建設業労働者の年収額の推移

- 全産業労働者の賃金は、平成7年頃までは上昇を続け、他産業との格差は縮小したが、近年はふたたび低下傾向。
- 建設業は全産業に比べて低下傾向が強く、北陸の平均では平成25年では全産業(男)に比べて約32万円低い。

■建設業の一般労働者の年収額の推移(北陸3県)

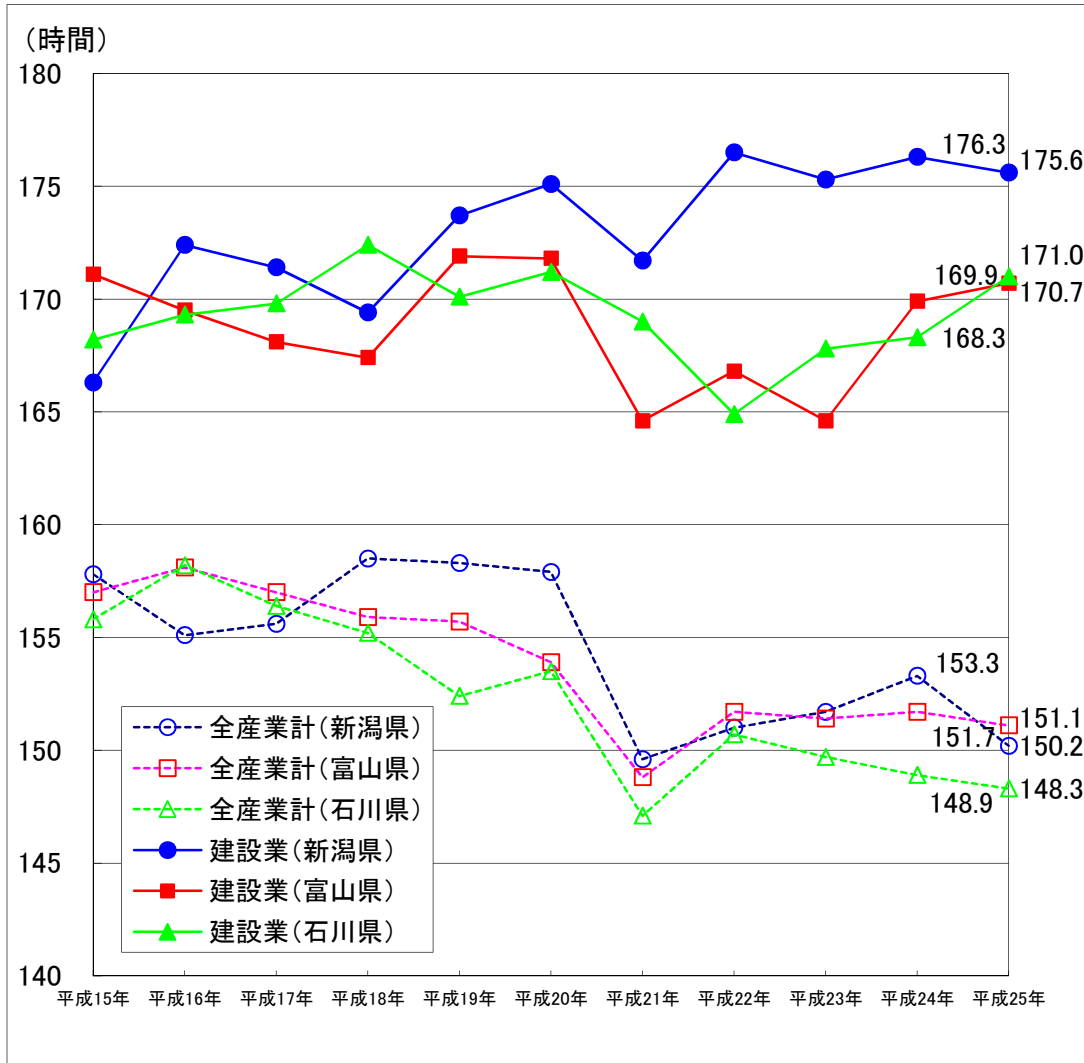


※建設業の一般労働者:建設業の常用労働者10人以上を雇用する事業所に雇用されている常用労働者。

北陸における実労働時間の推移

○ 他産業に比べ建設業は労働時間が長い(約23時間/月、約270時間/年)

■ 常用労働者の月平均総実労働時間の推移(北陸3県)



■ 常用労働者の年間総実労働時間(H25年)

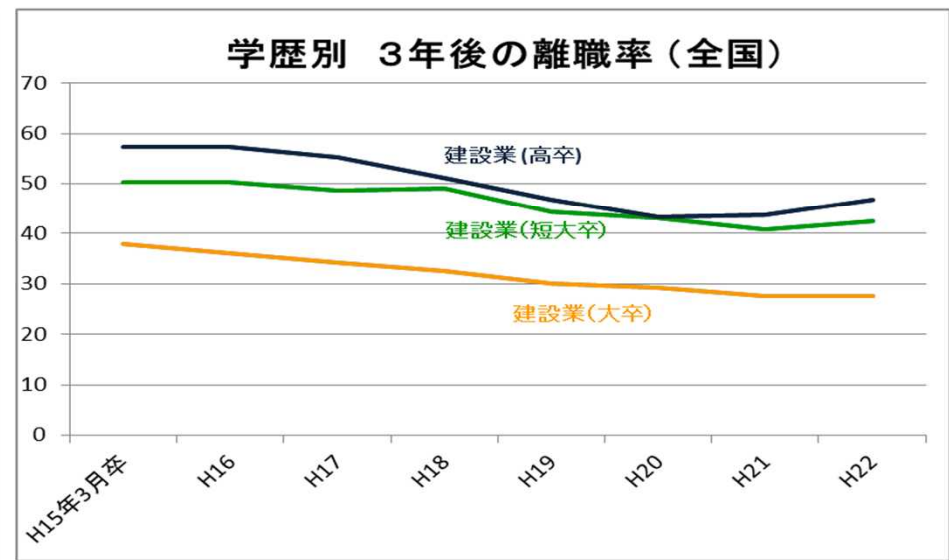
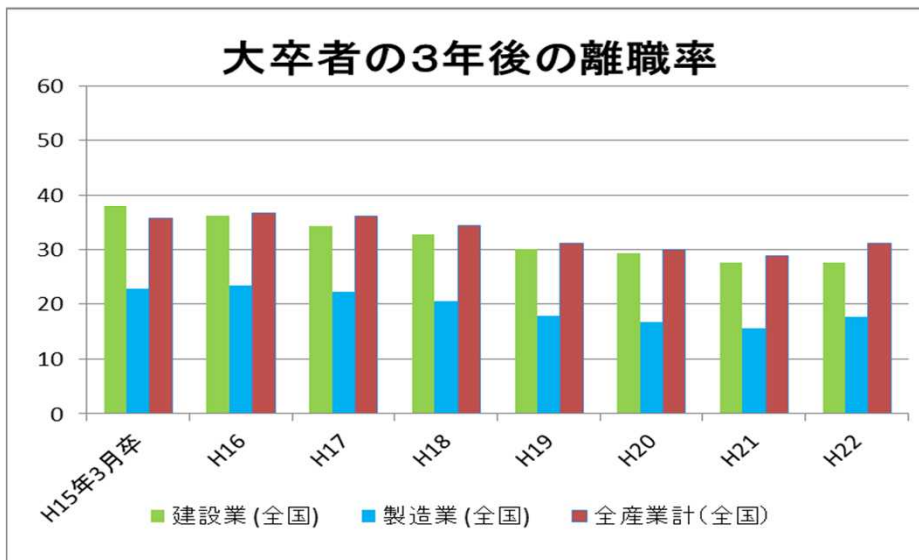
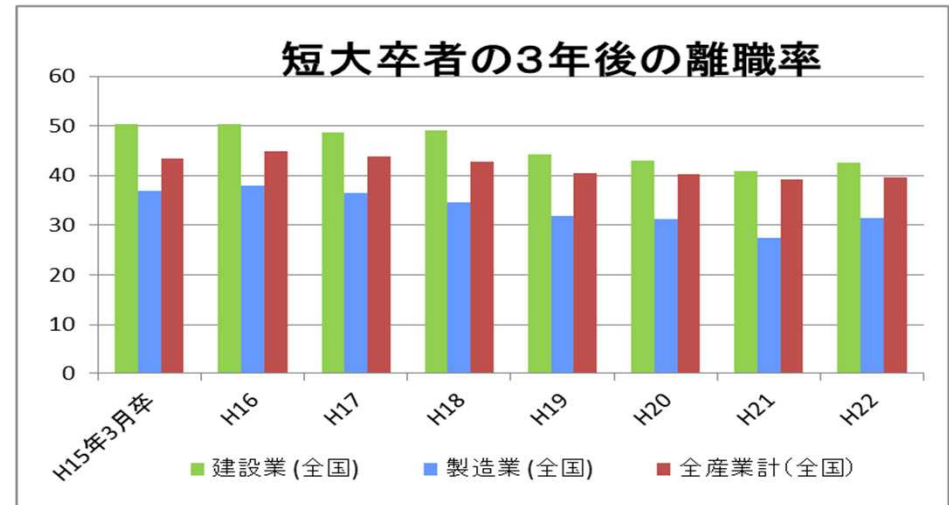
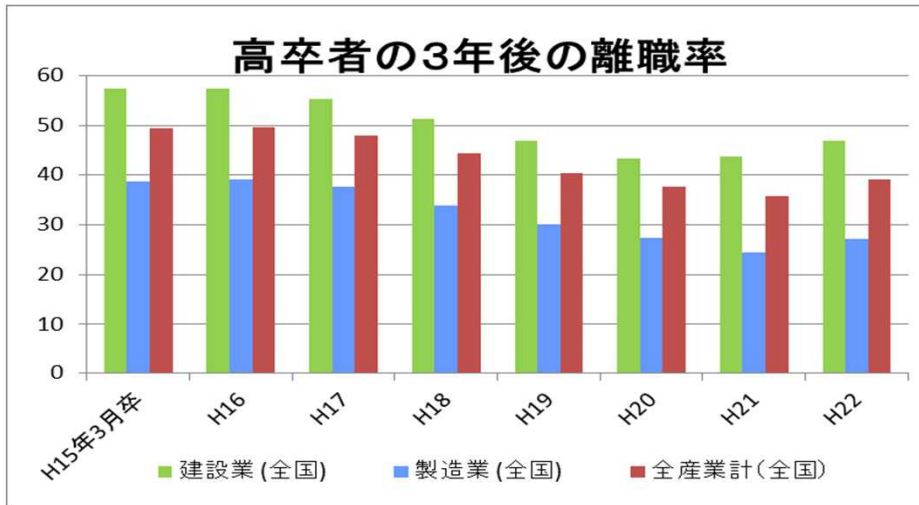
	全産業	建設業
新潟県	1,802	2,107
富山県	1,813	2,048
石川県	1,780	2,052
3県平均	1,798	2,069 (全産業に対する率:1.15)

出典:新潟県、富山県、石川県「毎月労働調査」

注:年間総実労働時間=月平均総労働時間×12ヶ月

新卒者の離職状況(卒業3年後の離職率)

- 建設業における学歴別離職状況は、高卒が約5割、短大卒が約4割、大卒では約3割と高い離職率となっている
- 製造業と比較すると、どの学歴でも建設業の離職率が高い状況
- 特に、高卒者・短大卒者は、建設業が全産業に比べても高い傾向



北陸地方における主な災害

H18年豪雪



H19.3.25 能登半島地震



H24.4.22 地すべり (三条市)



H23.7.28 新潟・福島豪雨



H20.7.28 豪雨

石川県金沢市(浅野川)

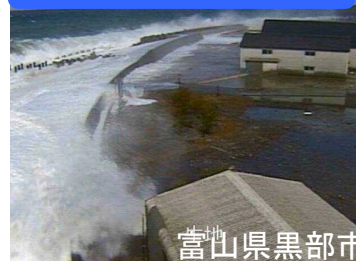


H25.7.29 豪雨

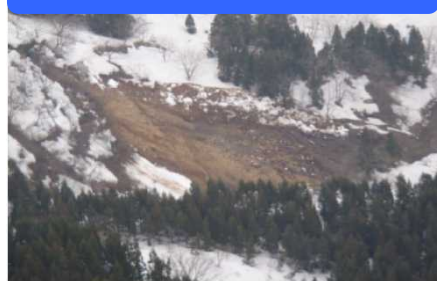
石川県小松市(梯川)



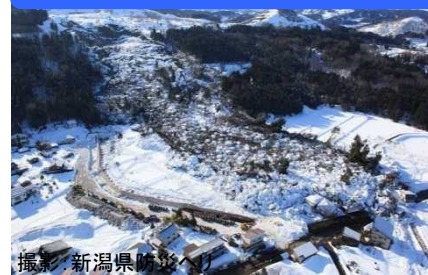
H20.2.24 高波災害



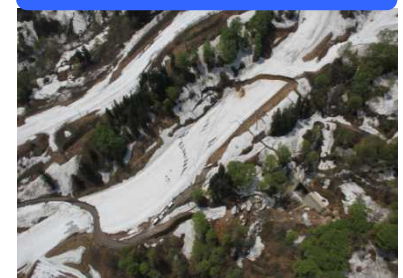
H24.4.12 地すべり(糸魚川市)



H24.3.7 地すべり(上越市)



H25.5.7 地すべり (魚沼市)



H16.10.23 新潟県中越地震



H19.7.16 新潟県中越沖地震



老朽化が進む社会資本

- 高度成長期以降に整備したインフラが急速に老朽化
- 今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる

建設後50年を経過する社会資本の割合

	2013年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約40万橋 ^{(注)1} (橋長2m以上の橋約70万のうち)]	約18%	約43%	約67%
トンネル [約1万本 ^{(注)2}]	約20%	約34%	約50%
河川管理施設 (水門等) [約1万施設 ^{(注)3}]	約25%	約43%	約64%
下水道管きよ [総延長：約45万km ^{(注)4}]	約2%	約9%	約24%
港湾岸壁 [約5千施設 ^{(注)5} (水深-4.5m以深)]	約8%	約32%	約58%

- (注) 1 建設年度不明橋梁の約30万橋については、割合の算出にあたり除いている。
- 2 建設年度不明トンネルの約250本については、割合の算出にあたり除いている。
- 3 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,000施設を含む。(50年以内に整備された施設についてはおおむね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)
- 4 建設年度が不明な約1万5千kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)
- 5 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。

さまざまなインフラの老朽化

【河川構造物の例】
樋門の老朽化



【橋梁の例】
斜材の破断



ポンプ施設の摩耗・腐食等



ポンプ原動機からのオイル漏れ



ポンプインペラの発錆状況

橋脚の洗掘・沈下



北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会

1. 目的

- ・北陸地方における建設界の担い手をめぐる現状や課題に関する認識を共有し、建設界の担い手不足に対し、**建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体**となって、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的とする。
- ・協議会は取り組み推進のプラットフォームとして機能し、建設業が持つ**「誇り・頼もしさ・楽しさ」**を各種取り組みを通じて発信していく方針。

2. 開催概要

〔日時〕平成26年10月3日（金） 15:00～17:00
〔開催地〕北陸地方整備局、富山河川国道（※2会場によるテレビ会議）

〔参加者〕

（行政）

北陸地方整備局、新潟・富山・石川3県労働局、3県、新潟市
3県教育委員会

（建設産業）

日建連北陸支部、3県建設業協会、建設コンサルタツ協会北陸支部
3県測量設計業協会

（教育）

新潟大学、長岡技術科学大学、富山大学、金沢大学、金沢工業大学、
長岡・石川高専、3県立工業高校

〔議事概要〕

- 1) 建設界ととりまく情勢について
- 2) 担い手確保に向けた既往の取り組み及び今後の予定について
- 3) 学生等が建設界に求める情報（ニーズ）について
- 4) 今後の取組方針（案）について
- 5) 学生等に伝わるコンテンツ（案）について
- 6) 今後の進め方（案）について

今後の取り組み方針

- ① 地域の課題を検討するため新潟、富山、石川の3県に部会を置き、学生に伝わるコンテンツの具体策などを継続的に検討。
- ② 各取り組みについて、確認・評価したうえで、建設界への入職率・離職率などの指標を用いたPDCAを実施。



新潟会場の状況



富山会場の状況



座長(北陸地方整備局庁)からの挨拶



教育関係者からの意見(富山大学)

学生等に伝わるコンテンツ(案)

<土木・建築系学生へのアプローチ強化>

- 実習プログラムの充実
 - ・構内実習、現場実習プログラムの充実、現場見学会の工夫
- 座学・講義等の充実
 - ・行政による「地域のものがたり講座(仮称)」の開設、インターンシップの充実
- 建設界における情報共有
 - ・教育機関への求人情報、入職状況、離職状況等の情報提供など

<上記以外の学生等へのアプローチの強化>

- 小中学生向けのメニューを、官民共同で検討
- 父母・父兄が参加する現場見学会の開催
 - ・旅行会社等との連携や高名な学識経験者プロデュースのインフラツーリズムの開催など